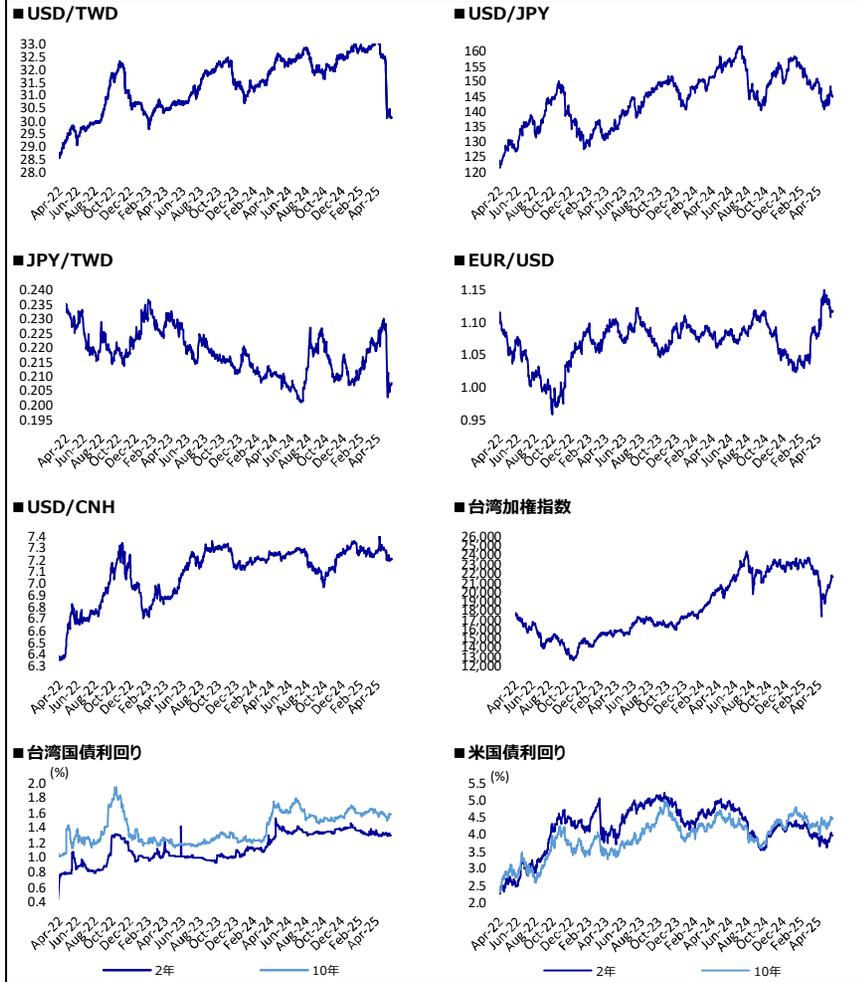


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/12は30.290でオープン後、週末の米中貿易交渉では双方から前向きな姿勢が見られたため、人民元をはじめアジア通貨が堅調に推移したことを受け、台湾ドルは一時30.185まで下落。5/13、堅調な人民元と米ドルに挟まれ、30.300を中心に上下したが、午後は外資によるドル買いが優勢となり、ドルは一時30.460まで上昇。5/14は、韓国ウォンなどのアジア通貨が堅調に推移したことに加え、外資による台湾ドル買いが加速したため、ドルは30.252近辺まで下落。5/15は、海外市場におけるドル安に加え、外資による台湾ドル買いも入り、ドル売り優勢の展開となり、一時30.136まで下落。5/16は、外資による資金流入が止まらず、ドルは一時30.088まで下落。しかし、輸入企業や国内投資家のドル買いが入り、ドルの下値をサポート。最終的には前週比0.45%ドル安台湾ドル高の30.172で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は996.9億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は小幅上昇。週初5/12は145.80でオープン後、米中は90日間の交渉期間入りで合意したことに加え、期間中に関税率を相互に115%引き下げたことなど、市場が想定していた以上に大幅な関税引き下げで合意したため、市場心理改善とともにドル円は急騰。5/13は、4月米コアCPIは前月比+0.237%と市場予想（同+0.3%）を下振れたことを受け、ドルは再び147円台半ばまで小幅調整。5/14は、韓国と米国が5月初めに為替政策について協議したとの報道が流れ、日本とも為替について協議するとの懸念で、一時145円台後半に下落した後、米国が貿易交渉で通貨政策を求めないとの報道や米金利の上昇を受け、ドルは146円台後半まで買い戻された。5/15は、米4月小売売上が市場予想以上に減速し、米債利回りの低下とともに、ドルは145円台半ばまで反落。5/16は、ドル売りがやや優勢の展開となり、一時145円前後まで低下していたが、欧米時間に入り、予想を上回る米消費者インフレ期待を受け、ドルは再び146円前後まで上昇。最終的には前週比0.23%ドル高円安の145.68で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：29.900-30.500  
今週のドル/台湾ドルはレンジ推移を見込む。台湾株の上昇が一服し、外資による資金流入が一段落となる可能性から、ドルの下値をサポートするのだが、ドル資産離れの動きが逆にドルの上値を抑える可能性も。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：142.50-147.50  
今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。米国の格付け引き下げで、ドル資産離れの懸念から、ドルは上値重い展開を予想だが、G7財務大臣・中央銀行総裁会議を控え、様子見ムードが強まる可能性も。

今週の予定

5/19 (MON)	中国4月工業生産
5/20 (TUE)	G7財務大臣・中央銀行総裁会議、台湾4月輸出受注
5/21 (WED)	日4月貿易統計
5/22 (THU)	独5月Ifo景況感指数、米5月S&P米国製造業PMI
5/23 (FRI)	日4月消費者物価、米4月新築住宅販売件数、台湾4月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。